

IMF サーベイ

危機後の欧州

欧州は一層の政策協調を

IMF サーベイ・オンライン

2010年3月17日



ハノーバーの産業貿易フェア:ドミニク・ストロスカール IMF 専務理事は、欧州諸国は各々の経済のバランスを立て直さなければならぬと述べた。(写真:ロイター)

- IMF 専務理事、世界危機後における政策協調の強化を要請
- 成長を損なうことなく公的債務の削減を実現することが重要課題
- 金融安定化の枠組みの強化が不可欠

国際通貨基金（IMF）のドミニク・ストロスカール専務理事は、欧州議会で演説を行った。この中で同専務理事は、この度の世界危機の経験により、同様の危機の再来の防止には、世界及び欧州において国際協調の強化が不可欠であることが明らかになったと述べた。

欧州議会の経済通貨委員会の年次総会が3月17日にブリュッセルで開かれ、欧州議会並びに欧州連合加盟各国の議会から120名以上の議員が出席した。この中でストロスカール専務理事は、「金融市場が回復し経済成長が再開する中、永続的な変革をもたらそうとする決意が既に薄れ始めている」と懸念を表明した。

また同専務理事は、欧州の各制度を強化し危機への抵抗力を高め、成長と繁栄を促進するには、財政政策から金融部門への規制に至るまで様々な課題について政策協調を強化する必要があると述べた。

IMFは、2010年における欧州連合（EU）の[GDP成長率](#)を1%と予測している。

財政政策が鍵

ストロスカール専務理事は[演説](#)の中で、公的債務を持続可能な水準に戻し、マクロ経済の安定性に対する深刻な懸念を緩和することが、多くの国の最重要課題だと述べた。これは容易な作業ではない：先進国の公的債務の対GDP比は、2014年までに平均で110%に上昇すると予測されるが、これは危機前と比較し約35%増となる。さらに同専務理事は「現在我々は、財政の持続可能性の回復に向けた戦略を必要としているが、それは支援を時期尚早に解消し経済回復を危うくするものであってはならない」と述べた。このような戦略の重要課題として、財政制度の強化や健康保険および年金受給制度の改革が挙げられる。

新たな成長の原動力を模索

またストロスカーン専務理事は、欧州諸国は各々の経済のバランスを立て直す必要があると指摘すると共に、その対象は各国ごとに異なるが、全ての国々が新たな成長の原動力を特定することが不可欠だと述べた。

慢性的な経常赤字を抱える国では、国民の貯蓄の増加が不可欠でありまた輸出による成長への更なる貢献が求められる。一方、恒常的に経常黒字を有する国では、消費促進などによる国内需要の拡大が肝要である。ストロスカーン専務理事は、このような調整には、生産性の向上並びに労働市場の柔軟性の向上が不可欠だと述べた。

金融システムの抵抗力の強化

このたびの金融市場の見事な復活は、必ずしも今後が順風満帆であることを保証するものではない。ストロスカーン専務理事は、欧州各国は、金融の安定性の促進のための、国境を越えた新たな制度の構築に向けたこれまでの取り組みを確固たるものとすべく、さらに努力を重ねることが必要だと述べた。

同専務理事は「欧州システミック・リスク理事会および欧州金融監督システムの設立が予想され、また欧州議会がその実効性の向上に向けた提案を打ち出している。このことから、リスク監督の向上、ひいては危機を未然に防ぐ能力の改善が大いに期待できる」と述べ、各国政策当局に対し包括的な改革案への早急な合意を促した。「政策当局にとり、我々の制度の再構築は単に機会ではなく義務でもある」と同専務理事は述べた。

また同専務理事は、これら改革案は特に複数国にまたがる銀行の危機管理及び解決を対象としていないと指摘し、「私の見解では、欧州には危機予防と管理及び解決、また預金者保護のための統合された枠組みが必要だ」と述べた。

一層の国際協力を要請

最後にドミニク・ストロスカーン専務理事は、今回の危機においては、各国による前例の無い規模の協調体制により大恐慌の再現が回避されたと述べた。「我々は新たな経済・金融体制を構築しようとしている。この体制下では、革新的且つ安全な金融部門に支えられ力強い経済成長が実現することで、全ての国家が恩恵を受けるはずである。この実現に向け、現在国際協力はこれまでに無く必要とされている」

同専務理事は欧州の政策当局に対し、欧州の制度の改善のみに焦点を当てるのではなく、世界的な解決手段が確実に見出されるよう、欧州の政治的な影響力を行使するよう要請した。